

琵琶湖・淀川流域ネットワーク推進会議

かわら版

— 第 16 号 —

事務局：京都府建設交通部水道政策課

TEL：075-414-4373 FAX：075-414-5470

e-mail：suidoseisaku@pref.kyoto.lg.jp

～ 令和 7 年 3 月発行 ～

琵琶湖・淀川流域図

— 府県界
— 流域界
— 上水供給界



構成団体

- ・ 三重県地域連携・交通部
水資源・地域プロジェクト課
TEL:059-224-2010
- ・ 滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖保全再生課
TEL:077-528-3461
- ・ 京都府建設交通部水道政策課
TEL:075-414-4373
- ・ 大阪府政策企画部企画室推進課
TEL:06-6944-6205
- ・ 兵庫県企画部総合政策課
TEL:078-362-3294
- ・ 奈良県環境森林部水・大気環境課
TEL:0742-27-8489
- 〔オブザーバー〕
 - ・ (公財) 琵琶湖・淀川水質保全機構
TEL:06-6920-3035

■「琵琶湖・淀川流域ネットワーク推進会議」とは

平成 15 年 3 月に京都市等で開催された『第 3 回世界水フォーラム』を契機に、流域 6 府県（三重県・滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県）が、水環境保全のネットワークを構築するため「琵琶湖・淀川流域ネットワーク推進会議」を設立しました。

■「琵琶湖・淀川流域ネットワーク推進会議」の活動

「琵琶湖・淀川流域ネットワーク推進会議」では、琵琶湖・淀川流域の自治体間の情報共有及び連携を推進し、琵琶湖・淀川流域における水環境保全の取組等に関する啓発事業及び情報の発信を行うこととしております。

※かわら版では、構成団体における水環境保全に関する取り組みを紹介します。

— URL： <http://www.pref.kyoto.jp/kyonomizu/10400031.html> —

■三重県■ 木津川ダム総合管理所の取組について

淀川水系の主要な支流であり、三重県を源流とする木津川。この木津川上流で複数のダムを管理する水資源機構木津川ダム総合管理所の取組を紹介します。

1. 概要

独立行政法人水資源機構木津川ダム総合管理所では、木津川の上流に位置する木津川ダム群（高山ダム、青蓮寺ダム、室生ダム、布目ダム、比奈知ダム、川上ダム）を管理しています。各ダムは次のような、複数の役割を担っています。

- ①洪水調節（大雨の際、水量の一部をダムに貯留することで下流の水量を抑え、浸水被害を軽減）
- ②河川環境の保全等（河川の水量が少ない時にダムに貯留した水を供給し、水量を一定以上確保）
- ③利水の供給（水道用水や農業用水を供給）
また、ダムからの放流水を利用して水力発電も行っています。



2. 現在の取組内容

(1) フラッシュ放流

名張川・布目川の5ダム（高山ダム、青蓮寺ダム、室生ダム、布目ダム、比奈知ダム）では、4月から5月にかけて、ダムから下流へ流す水を一時的に増やす「フラッシュ放流」を行っています。これにより、川底の石などに付着した泥や古い藻などを洗い流すことで、河床をリフレッシュさせ、生き物が住みやすい環境となるよう努めています。また、フラッシュ放流時には、ダム上流に貯まった土砂をダムの下流に置くことで、河川へ土砂の供給を行うと同時に川底の攪乱効果を高める取組をしています。

(2) 水質保全対策

水道用水等に使われる水源として、貯水池の水質保全に取り組んでいます。プランクトンの異常な増殖や貯水池底部の嫌気化抑制を目的とした曝気装置の設置・運用、貯水池の状況に合わせた取水深度の変更等の対策を行っています。



令和6年高山ダムからのフラッシュ放流状況

(協力：水資源機構木津川ダム総合管理所)

■ 滋賀県 ■

国連総会で「世界湖沼の日（8月27日）」が採択されました

令和6年12月12日、ニューヨークで開催された第79回国連総会において、インドネシアをはじめ日本を含む74か国の共同提案により「世界湖沼の日」に関する決議案が採択されました。

この決議により、滋賀県が昭和59年（1984年）に主催した世界湖沼環境会議（第1回世界湖沼会議）の開会日である8月27日が「世界湖沼の日」と定められました。



第1回世界湖沼会議
（1984年8月27日開会 於：大津市）

この「世界湖沼の日」は、滋賀県がこれまで世界湖沼会議などを通じて訴えてきた、「人類にとって貴重な水資源である湖沼が抱える問題の解決には、世界の人々と協力する必要がある」ということを改めて認識する契機となります。

今後、滋賀県は「世界湖沼の日」をきっかけとして、湖沼の重要性をさらに多くの方に知っていただき、琵琶湖と世界の湖沼の保全がさらに進むよう努めていきます。

MLGs つながるアワードが開催されました



マザーレイククルーズ 2024

令和6年11月1日に、「マザーレイククルーズ 2024」が琵琶湖に浮かぶ客船「ビアンカ」の船上で開催されました。

このイベントは、大阪・関西万博に向け、関西2府4県の地方テレビ局がそれぞれの地域の魅力を発信する動画を制作し、万博会場で発表する「関西歴史文化首都パワープロジェクト」のキックオフイベントでもあります。

イベントでは、「琵琶湖」「水」「川」「海」を守り持続可能な社会に向け日々地道な活動をしている滋賀、京都、大阪、奈良の5団体が活動発表を行い、参加者から最も共感を得た団体に「MLGs※つながるアワード」が贈られました。

【発表団体】

びわこ豊穡の郷（滋賀）、ぼてじゃこトラスト（滋賀）、かわかみ源流ツーリズム（奈良）、京都・梅小路みんながつながるプロジェクト（京都）、関大マイボトルアンバサダー（大阪）

※マザーレイクゴールズ（MLGs）とは

2021年7月に策定された、「琵琶湖」を切り口とした2030年の持続可能社会へ向けた目標（ゴール）です。

「琵琶湖版SDGs」として、2030年の環境と経済・社会活動をつなぐ健全な循環の構築に向け独自に13ゴールを設定しています。



▲ MLGs WEB

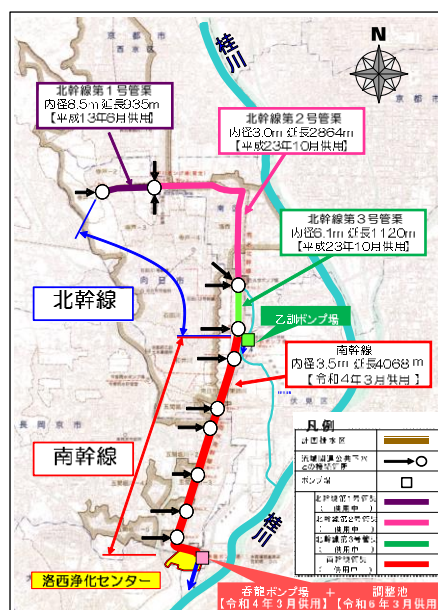
■京都府■ いろは呑龍トンネルの整備について

京都府南部の京都市、向日市、長岡京市にまたがる桂川右岸地域における度重なる水害から地域を守るため、京都府では、桂川右岸流域下水道における雨水対策事業として、地下トンネル「いろは呑龍トンネル」の整備を平成7年度から進めています。いろは呑龍トンネルの整備事業では、上流の約5kmの北幹線と下流の約4kmの南幹線からなる延長約9kmの幹線管渠（地下トンネル）、3か所の排水ポンプ場、調整池、雨水を取り込むための接続施設11か所の整備が計画されています。

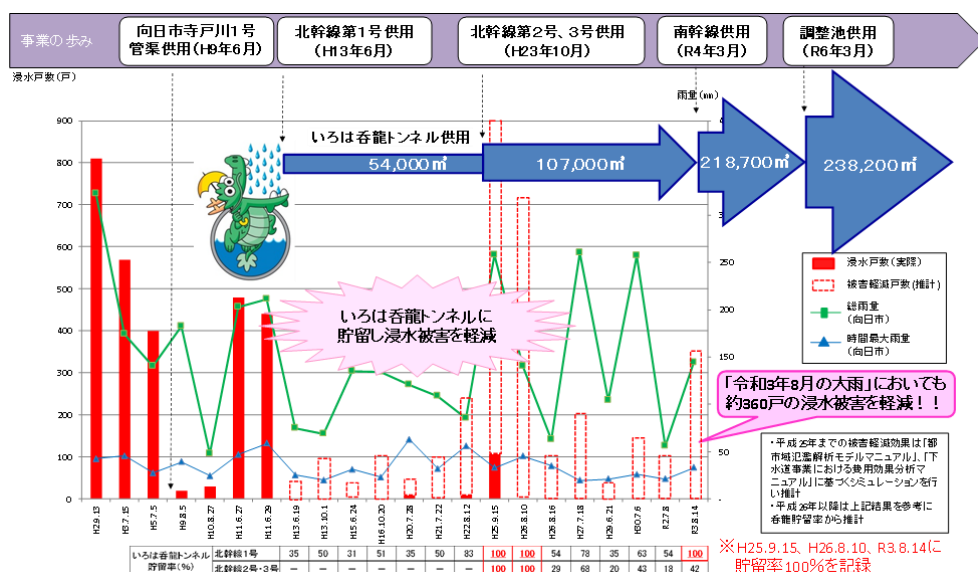
既に、北幹線第1号管渠（平成13年度）、同第2号・第3号管渠（平成23年度）、南幹線及び幹線管渠の雨水を桂川へ放流する呑龍ポンプ場（令和3年度）の供用を開始しており、平成13年度の北幹線第1号管渠の供用開始以来、合計373回、延べ約185万 m^3 の雨水を取り込み、その浸水被害軽減戸数は3,000戸余りと推計しています。

令和6年3月には、調整池や8か所目の接続施設が完成するとともに、南北の幹線の一体運用（北幹線第1号管渠の雨水を流下させ最下流の呑龍ポンプ場から桂川へ放流する運用）のための工事が完了し、供用が開始されています。これにより、いろは呑龍トンネルの対策量は238,200 m^3 となり、当初の計画対策量を達成しました。

今後は、さらなる浸水安全度の向上に寄与するべく、残り3か所の接続施設の工事を進め、令和9年度の事業完成を目指します。



図－1 計画概要図



図－2 事業の歩みと浸水被害軽減効果（推計）

■大阪府■ 大阪湾 MOBA リンク構想の実現に向けて

ブルーカーボン生態系（藻場・干潟等）は、CO₂の吸収源としての気候変動の緩和や、溶存酸素の供給等による水質改善、魚類等の産卵と生育の場の創出による生物多様性の向上など、多面的な機能を有しています。

大阪府では、2025年大阪・関西万博等を契機とし、大阪湾におけるブルーカーボン生態系のミッシングリンクとなっている湾奥部における創出や、湾南部や西部における保全・再生を進めることにより、大阪湾沿岸をブルーカーボン生態系の回廊（コリドー）でつなぐ『大阪湾 MOBA リンク構想』の実現をめざしています。

本構想に賛同する民間企業、団体、行政機関等が連携して、大阪湾におけるブルーカーボン生態系の保全・再生・創出を推進するため、兵庫県とともに「大阪湾ブルーカーボン生態系アライアンス（MOBA*）」を令和6年1月に設置しました。 *Members of the Osaka bay Blue carbon ecosystem Alliance（令和7年2月3日現在・77団体）

本アライアンスでは、令和6年5月に初めての会合（意見交換会）を開催し、9月には藻場再生・創出や情報発信に関するワーキングを設置・開催するなど、情報共有や新たな取組みの具体的な検討・実施を進めています。



大阪湾 MOBA リンク構想



アライアンスでの活動の様子（左：意見交換会(5月)、中：海藻の移植実証(5月)、右：第2回ワーキング(12月)）

また、大阪府では、令和6年度に、大阪・関西万博の会場対岸にある人工護岸（咲洲西護岸）において、民間事業者から公募し、約1,000 m²の藻場創出に取り組んでいます。

さらに、ブルーカーボン生態系の重要性や大阪湾における自治体や民間企業等によるブルーカーボン生態系の取組を紹介する啓発動画や、大阪湾の海の中にあるような体験ができるバーチャル体験動画を作成しており、万博等で実施するイベントで活用し、国内外に広く情報発信していきます。



大阪湾の映像コンテンツ（イメージ）

■兵庫県■ 一大阪・関西万博を契機とした情報発信の取組—

1. はじめに

兵庫県では、国内外の多くの方が訪れる 2025 年大阪・関西万博を機に、県全体をパビリオンに見立て、発信する「ひょうごフィールドパビリオン」を展開しています。SDGs を体現する活動の現場そのもの（フィールド）を地域の方々が自ら発信し、実際に県内各地へ訪れた方に見て、学び、体験していただくプログラムとして、260 件（R7. 1. 28 現在）を認定しています。

2. 琵琶湖・淀川流域に関連するフィールドパビリオン【尼崎閘門（尼ロック）】^{しょうげ}

ひょうごフィールドパビリオンの 1 つとして、淀川水系の一級河川である庄下川と尼崎港を隔てる尼崎閘門があります。尼崎は古くから交通の要衝であり江戸時代には城下町として、明治後半からは工業都市として発展してきました。しかし、これらの工場が大量の地下水を汲み上げたことにより、地盤が沈下し、尼崎市の約 40% が海水面よりも低い「海拔ゼロメートル地帯」となったことから、台風等の浸水被害を受けるようになりました。そこで、「海拔ゼロメートル地帯」の治水・高潮対策と運河などによる物流が盛んである臨海部の船舶利用を両立させるため、昭和 29 年に日本で最初のパナマ運河方式の閘門として尼崎閘門が建設されました。閘門のことを英語で lock gate と呼ぶことから「尼ロック」という愛称で呼ばれており、2024 年にはこの地を舞台にした映画「あまろっく」が公開されました。



出展：Google map



出展：ひょうごフィールドパビリオンHP

3. ニロックを体験するプログラム「尼崎運河クルーズツアー」

チャーター船に乗船して閘門の開閉による水位調整や、「産業都市尼崎」の工場群を縫うように張り巡らされた運河のクルーズ、河口での魚釣り、BBQ などを体験することができます。

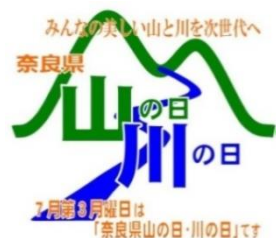


【参考】ひょうごフィールドパビリオン HP

URL : <https://expo2025-hyogo-fieldpavilion.jp/>

■奈良県■ リバーウォッチングの実施について

海に面していない奈良県では、山と川が身近な自然であり、歴史と文化の源です。奈良県では、山と川の重要性や魅力について理解を深め、美しい山と川を次世代に残すことを目指して、国民の祝日「海の日」である7月第3月曜日を「奈良県山の日・川の日」とする条例を平成20年に定めました。



その関連行事の一環として奈良県では、上流がきれいな水であることが、海もきれいな水になるとのことで、子どもの頃から川に親しむ機会を通じて水環境や水質改善に対する意識を高めるために、県内の小学校等を対象にリバーウォッチングを実施しています。河川で探した水生生物を題材に、分かりやすく水質や河川環境について学べるような内容となっています。

専門の講師（環境科学博士の谷幸三先生）による講義では、水生生物を指標にして調査した川の水質を4段階で判定し、川の水の汚れの原因や、川を汚さないために自分たちには何ができるのかを考えます。

令和6年度は、奈良県内の淀川水系周辺の3つの学校でリバーウォッチング（うち1校は雨天のため講義のみ）を実施しました。

令和6年7月9日（火）に福住小学校の5、6年生の皆さんと布目川で実施したリバーウォッチングでは、きれいな水にすむサワガニが観察されました。また令和6年9月10日（火）に大宇陀小学校の4年生の皆さんと宇陀川で実施したリバーウォッチングでは、今年度実施したリバーウォッチング全17校で3番目に多い、計11種もの水生生物が観察できました。



福住小学校で観察されたサワガニ

小学生がリバーウォッチングを行うことで、教科書で学ぶ内容を実際に体感でき、環境のつながりや生物の多様性の重要性を理解できます。また、川の水質が悪い場合は、環境保護への意識を高めることができます。これらの体験を通じて、子どもたちは将来の社会で責任を持って行動する大切さを学びます。



大宇陀小学校での
リバーウォッチングの様子

自然科学への興味を深めるとともに、協力や環境保護の重要性を学べるリバーウォッチングをこれからも継続し、「川を汚さない」「きれいな川をこれからも守っていく」という意識を醸成し、誇りと愛着を持てる奈良の美しい山と川を育み、次世代へ引き継いでいきたいと考えています。



公益財団法人

琵琶湖・淀川水質保全機構

飲める水遊べる水辺次世代に

美しい自然と豊かに水に恵まれ、水系に生きる人々に癒しと潤いをもたらす、生活や経済活動の糧として計り知れない恩恵を与え続けてくれている琵琶湖・淀川。

私どもは、関係機関、NPO、住民、企業の方々と連携しながら、「遊んだり泳いだりするのに適した河川や湖にする」という目標の実現に取り組んでいます。

機構は、流域の水質保全に資する①調査研究、②広報・啓発、③活動支援の3つの事業を行っています。

①水質保全に関する調査・研究

琵琶湖・淀川流域は2府4県に跨っており、関係機関からニーズのある課題、広域的な課題または単独の府県市で解決しづらい水質問題や共同連携による取り組みが効率的な水質課題の解決を目的として調査研究を進めています。

研究の進め方としては、自主調査・研究、他研究機関との共同研究、流域研究機関との情報の共有の場の活用、機構の行う研究を補完する水質保全研究助成などにより取り組んでいます。

専門家、学識経験者から構成する学術委員会を設置し、機構の行う調査研究等の企画・実施の指導・助言等を得ながら進めています。



②水質保全についての広報・啓発・情報発信

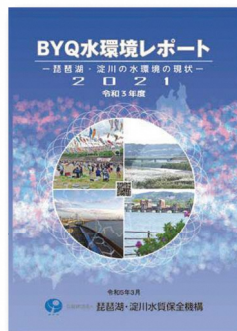


「BYスタンプラリー」を通じて、流域住民の水環境への関心を高めていくきっかけづくりに役立てていただきます。

より多くの市民の方々に、琵琶湖・淀川流域で水環境改善活動を行っているNPOや市民団体、水関連施設等を知っていただき、それらの活動に積極的に参加していただくことを目的としてBYスタンプラリーを実施しています。



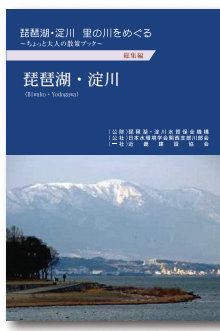
採水作業に従事する研究員



BYQ水環境レポート

BYQ水環境レポートを発行しています。

「BYQ水環境レポート」は、琵琶湖・淀川流域の概要、水利用、水質、機構水質浄化研究所の報告。流域圏の関係データをまとめた資料で、機構発足時から毎年発行しています。当機構のホームページでも全編を掲載しています。



ちょっと大人の散策ブック

水情報冊子

「琵琶湖・淀川 里の川をめぐる」を発行しています。

「琵琶湖・淀川 里の川をめぐる～ちょっとおとなの散策ブック～」は、琵琶湖・淀川流域内の河川について水に関する歴史や見所を中心に紹介する情報誌です。河川への親しみを感じ、流域を散策してもらうことを目的に、他団体と連携して企画編集・発行しています。

③水質保全の研究や活動への支援

子どもたちのための助成事業

「こども水質保全活動助成」を行っています。

「琵琶湖・淀川こども水質保全活動助成」は、子どもたちが水質保全活動の担い手として活躍することを目指し平成26年度から取り組む事業です。地域の河川や湖を守り育て、将来潤いのある流域社会の形成を目的としています。



<助成の対象となる活動>

- 水環境について知り・理解する活動
- 水質の保全・改善に関する活動



琵琶湖・淀川流域の水質保全に関する研究への支援を行っています。

「水質保全研究助成」は、平成21年度から実施し、機構が実施する調査研究を補完し、毎年テーマを定めて、琵琶湖・淀川流域の水質保全の課題解決等に資する研究に助成しています。対象は大学や公的研究機関等としています。



会場の様子はインターネットでライブ配信しました。

- ✓ 湖沼・ダム湖等閉鎖性水域の新たな水質課題・視点に関する調査研究
- ✓ 気候変動に伴う水質変化など流域水環境管理のための調査研究
- ✓ 安全で安心な水のための健康リスクに関する調査研究

